

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳を中心に、生命の尊厳への理解を深め、自他を思いやる心の育成に努める。授業の中で「学び合い」を大切にす。 ・夢や目標につなぐ体験活動、生き方を学ぶ機会の充実を図る。また、夢実現のための短期目標の設定やその振り返りを行う場を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での学び合い、よいこと見つけ、異学年集団による活動を行うことで、思いやりの心を育て温かい人間関係をつくることができた。英語では、コミュニケーションを楽しみながら学習することができた。 ・外部講師から生き方を学んだり、地域の方と体験活動をしたりすることで、自分の生き方、夢や目標を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観などすると、どのクラスも和気あいあいと楽しそうに授業をしている。子供たちもみな積極的に取り組んでいるように見える。 ・児童が元気な声で目標を述べたり発言をししたりする姿を見ることができてよかった。 ・校長の学校経営方針が児童にも伝わっているように感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的で深い学びにつながる「学び合い」へ授業改善をしていく。また、終末(まとめ、習熟、振り返り)の確保と充実を目指す。 ・校外学習、出前授業等、夢や目標につながる体験活動を充実させる。 ・夢実現のための短期目標を設定し、その振り返りを徹底していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの機能を活用し、地域の人材や素材を生かした体験活動や、ぎふMIRAI'sでの学びの充実を図る。 ・他校種の情報交流や、小中9年間を見通した道徳教育等の交流をすることで、連携の強化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史探検や講話、防災についての講話や体験活動、車いす体験、えだめ栽培、長良川についての講話、地域探検など、各学年において、地域や外部の人材を招いた講座や体験活動を実施できた。 ・道徳の授業参観を通して、校区で大切にしたいことなど、小中の道徳教育等について交流することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から地域の方のかかわりがいろいろあってよい。児童だけでなく教職員も歴史探検の講話を集中して見たり聞いたりする姿勢は非常によかった。 ・子どもフェスティバルを通じて小・中学生の交流ができています。 ・地域には多様な人材がいるので、探出して協力していただけるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や交流、地域学習を通して「ふるさとごうど」のよさを実感させていく。 ・コミュニティ・スクールの機能を活用し、地域の人材や素材を生かした体験活動のさらなる充実を図る。
あたたかさど働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も子どもも「笑顔いっぱい」のウェルビーイングな職場環境をつくるため、勤務時間や会議等の見直しを図るなど、適切に業務が遂行できる環境づくりを進める。 ・コミュニケーションを大事にして、学校全体がチームとして機能する教職員集団づくりを進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の時間を見直したり内容を精選したりして、放課後の時間に余裕を生み出すことで、職員がコミュニケーションをとれる時間をつくり、学年会や学年部会、教材研究等を充実させることができた。 ・情報交流・コミュニケーションをとることを大切にして、どんなときも迅速にチームで子どもや保護者に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔いっぱいの児童を多く見る機会があり、安心して働ける。職員の表情も明るくてよい。 ・先生方が児童のよいところを引き出そうとしている姿が、職員間でもプラスに働いているように思う。 ・校外のあいさつが増えるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も子どもも「笑顔いっぱい」の学校を目指し、職場環境・業務改善を図る。 ・職員のワーク・ライフ・バランスの向上に努める。(時間外勤務時間月平均45時間以内、年間320時間以内の徹底) ・職員の親和性を高め、休暇が取得しやすく風通しのよい職場環境づくりを推進する。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・受容的で温かみのある指導・支援・教育相談を行い、迅速で誠実・確実な対応をすることで、いじめ・不登校の未然防止・対策を進める。 ・「よさ見つけ」を充実させ、温かい人間関係や自己肯定感、自己有用感を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校の子どもを全職員で見守ることを大切にし、情報共有しながらチームで迅速に対応することができた。 ・よいこと見つけを、学級内だけでなく、全校・家庭・地域に広げて行い、校内に掲示したり、全校放送で紹介したりすることで、温かい人間関係をつくることともに、自己肯定感、自己有用感を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい友人関係を育てる活動が多く設定され、学校の雰囲気明るくなっている。 ・いじめを「なくす」努力ではなく、「知る」ことが必要ではないか。誰の心にも「区別」や「差別」する心はあるものだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き受容的で温かみのある指導・支援・教育相談を行い、迅速で誠実・確実な対応をチームで行うことで、いじめ・不登校の未然防止・対策を進める。 ・教師の特長を活かした教科担任制を推進し、出張授業、交換授業を実施するなどして、児童一人ひとりに、複数の教職員が関わられる機会を増やしていく。
災害、事故に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害や事故を想定した命を守る訓練や引き渡し訓練、防災・安全教育等を行うことを通して、職員や児童の実践的な判断力・行動力の向上を図る。 ・組織を生かし、迅速かつ柔軟な対応ができるよう、マニュアルの整備や研修、訓練を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害を想定した命を守る訓練を実施し、その場に応じた自分の身の守り方について児童が考え、行動することができるようになってきた。また、6年生を中心に進めてきた防災学習を、防災オリエンテーリングで他学年にも広げることができた。 ・気候に合わせて柔軟に日課を設定し、児童の安全の確保に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を守る行動」として、様々な活動を通して、どのようなことが危険につながるのかを自分で考えられる児童の育成に努めた。児童が中心となって防災学習を進めていることがよい。 ・幼児期から段階的に進めていくことが大切。地域との訓練もやってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、様々な災害や事故を想定し、いろいろな訓練や防災・安全教育等を行うことを通して、実践的な判断力・行動力の向上を図る。また、6年生を中心とした防災オリエンテーリングを通して、全校で防災教育を継続していく。 ・今後は、地域の防災組織と協働できるような体制づくりにも取り組んでいく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末をはじめとしたICT機器を有効に活用し、学習活動を充実させるなど、教育DXの推進を図る。 ・児童や職員がより快適に過ごせるよう、施設の修繕、必要な教材教具、備品の購入など、学習・生活環境の整備を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、タブレット端末をどこでどのように活用するかを考え設定することで、子どもたちが機器を使いながら、主体的に学習を進めることができた。 ・児童や職員の安全、さらには快適な環境を考え、校内点検等や要望をもとに、学校予算を有効に使って修繕をしたり、市へ要望したりして環境整備を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末や英語の授業など、時代に対する積極的な姿勢に感心した。 ・先生も児童もタブレット端末の機能を活用し使いこなしていた。デジタル社会に生きる子供たちには、アナログとデジタル、メリハリつけて使っていけるようになってほしい。 ・職員の負担軽減のための整備は大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や教職員が安全に、より快適に過ごしたり学習したりできるよう、施設の修繕、備品の整理、必要な教材教具の購入など、学習・生活環境の整備を進める。 ・タブレット端末をはじめとしたICT機器の有効活用がさらに進むように、活用のための研修や実践交流の充実を図る。